

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

資料9-2

議案第3号

協議会名: 武豊町地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
【補助対象となる事業者名等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名、運行(航)区間、整備内容等を記載(陸上交通に係る確保維持事業において、車両減価償却費等及び公有民営方式車両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている場合、離島航路に係る確保維持事業において離島航路構造改革補助(調査検討の経費を除く。)を受けている場合は、その旨記載)】	【事業評価の評価対象期間において、前回の事業評価結果をどのように生活交通確保維持改善計画に反映させた上で事業を実施したかを記載】	A・B・C評価 【計画に基づく事業が適切に実施されたかを記載。計画どおり実施されなかった場合には、理由等記載】	A・B・C評価 【計画に位置付けられた定量的な目標・効果が達成されたかを、目標ごとに記載。目標・効果が達成できなかった場合には、理由等を分析の上記載】	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果を生生活交通確保維持改善計画にどのように反映させるか(方向性又は具体的な内容)を必ず記載すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記載
フジキュー整備株式会社(令和元年10月1日より運行)	コミュニティバス南部線 青ルート	<ul style="list-style-type: none"> ●ネットワーク全体の考察 ・コミュニティバスの利用状況や鉄道との乗り継ぎなど考察を行うため、状況調査(令和2年3月)を行い、その後、データ分析を行った結果、鉄道との接続利用ができていたことを確認できたが、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、バスネットワーク全体で、多い時には利用者が4割程減少した。 ●次期計画の策定について ・住民団体である生活の足を考える会と協力して、次期計画の策定に向けた住民ワークショップを開催し、バス路線網の見直しやバスを補う交通手段の検討を行った。 ●高齢者への周知について ・65歳以上の運転免許証の自主返納者と70歳以上の高齢者を対象に無料乗車券の交付を行い、申請時に併せてバスの利用方法の説明で利用促進に繋がった。 	A 計画通り事業は適切に実施されている。	A 令和元年10月に実施した南部青ルートの路線延伸や高齢者を対象とした無料乗車券の交付事業の実施を通してコロナ禍であっても利用者数が順調に増加しており、目標を達成した。 青ルート 目標値:22,000人 実績:22,581人	バスネットワーク全体から、幹線系統の赤ルートとフィーダー系統の青ルートの役割分担は、人口密度が高く主要施設の多い北部エリアを赤ルートがカバーし、人口密度が低い郊外部を青ルートがカバーしている。 分担の性格の違いから、青ルートは赤ルートに比べ、便当たりの利用者数は少ないという課題を抱えていたが、令和元年10月よりルートとダイヤの見直しを行い、南部青ルートを延伸させ、利用者層の拡大を行った結果、利用者増に繋がった。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、バスネットワーク全体で、多い時には利用者が4割程減少し、コロナ禍の前の水準に回復していないため、事業改善・利用促進等の対策が必要である。 一方で、70歳以上と65歳以上の運転免許証の自主返納者に対し、無料乗車券を交付し、地域公共交通の利用促進を継続しており、その効果も認められるため、継続実施する。(令和3年10月末で1,729人交付) また、車両の老朽化に伴い、更新車両は環境に配慮した電動バスの導入を予定している。